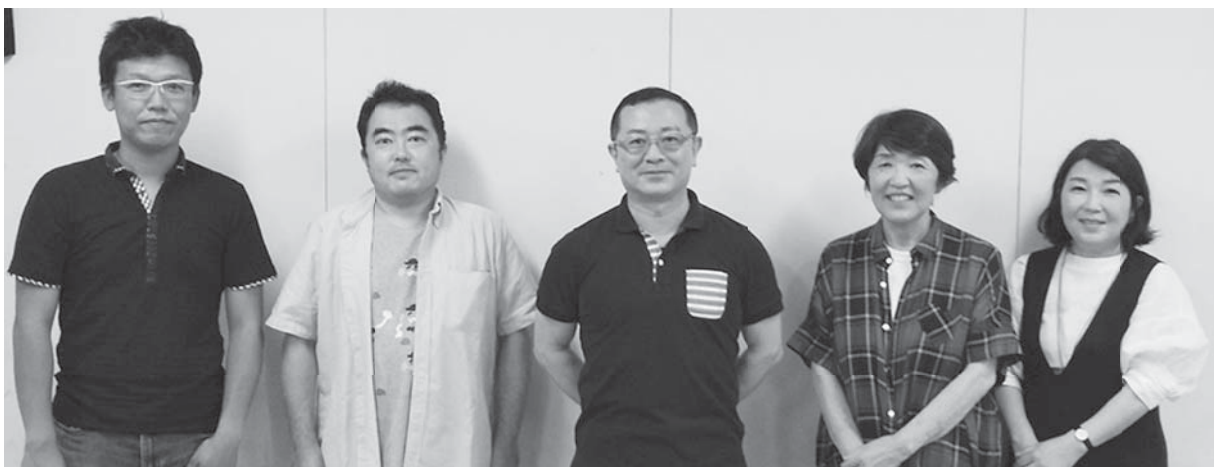


ひとりひとりのしあわせと、
生きる喜びを、いのちの輝きを
ささえたい。

きらめき

VOL. 72

大牟田市介護支援専門員連絡協議会 第11期 新体制でスタートしました！！



…会長挨拶…



林 洋一郎（高齢者総合ケアセンター サンフレンズ）

令和2年度 大牟田市介護支援専門員連絡協議会 定期総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面での審議となりましたが、この度、安藤寛治前会長の後を継ぎ、会長の役割を務めることとなりました。

はじめに、今回の令和2年7月豪雨により、熊本県を中心に、わがまち大牟田や九州各地、そして中部地方など広い地域で多くの皆様が被災され、尊い生命や大切な生活基盤を失いました。また、当協議会の会員の中にも自宅や事業所が被災し、日常の暮らしや事業ができない状態に置かれている方もおられます。

あらためて、お亡くなりになられた皆様のご冥福と、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。一日も早く、それぞれの生活を取り戻すことができますよう心よりお祈り申し上げます。

また、現在は、新型コロナウイルスの感染再拡大により、大きな局面に差し掛かっているように感じます。そのような中、医療機関をはじめ関係機関の皆様が、支援を必要とする方々のために最前線に対応されているお姿を目の当たりにし、感謝の念に堪えません。

今年度は、当協議会にとりましても通常ではないスタートとなり、これまでに経験したことのない形で活動していくこととなるでしょう。

本年1月に開催した当協議会設立20周年記念事業において、介護支援専門員のあるべき姿をあらためて描き、協議会の果たすべき役割について考える機会になりました。“利用者の人生の再構築のためのパートナー”として寄り添い、ともに悩み、一緒に考えることができる存在としての介護支援専門員を目指し、会員の拠り所となるような協議会を会員とともに創造するという目標を明確にしました。

苦難な時こそ、仲間への存在は有難く、心強いものです。皆で声掛けながら、気掛けながら、この難局を乗り切りましょう。また、関係者の皆様におかれましては、今後も引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

部会員紹介

…副会長挨拶…



松下しのぶ (社会福祉法人 あらぐさ会)

みなさまこんにちは。

私はこの度、副会長の任に当たらせていただくことになりました。

前期までは、前会長や新会長、部員の皆さんに支えていただきながら情報交流部会長の役割を担ってきました。

しかし、今期は副会長という任務も加わり、私の力量で大丈夫だろうかとちょっと不安もありますが、しっかり腰を据えて頑張りたいと思いますのでご支援よろしくをお願いします。

情報交流部会の事業については、前期末から現在に至るまで、新型コロナウイルス感染拡大という、今まで経験したことのない状況が続いていることから、計画していた事業を中止しなければならないという結果になりました。講師の先生も決定していたにもかかわらずとても残念でした。

今年度の事業については、これから情報交流部会員の知恵を結集してどのような内容で実施していけるのか考えていきます。

従来のような形式での開催にはならないかもしれませんが、この環境の中でできることを模索していきたいと考えていますので、皆さまへのお知らせはもう少しお待ち下さい。そしてご協力をよろしくお願い致します。

私としては、連絡協議会も20周年を経過し、次の世代へのパトタッチが大切になっていると思っています。

会員のみなさまが、今まで以上に積極的な当会への参加をして頂けますことをお願いしてご挨拶とさせていただきます。

情報交流事業部会



部会長	松下しのぶ	社会福祉法人 あらぐさ会
副部会長	井上みどり	三池地区地域包括支援センター
委員	工藤 信恵	吉野地区地域包括支援センター
委員	柴原 雅世	医療法人 福寿会
委員	坂田 和重	サンファミリー
委員	大隈テル子	居宅介護支援 あすなるの郷
委員	福島 慈江	介護付有料老人ホーム セー又大牟田
委員	村本 卓也	さかき診療所居宅介護支援事業所
委員	岩永 麗美	居宅介護支援事業所 こもれび
委員	平山 徹	荒尾こころの郷病院

研修事業部会



部会長	森田 里恵	居宅介護支援事業所 サン久福木
副部会長	河野 徳子	三池地区地域包括支援センター
委員	濱砂安喜男	デイサービス すぎの木
委員	石田 千秋	グループホーム ファミージュ
委員	上田 瞬	米の山病院
委員	坂井 敏子	吉野地区地域包括支援センター
委員	斎田ひとみ	親仁会ケアプランセンター
委員	森田 剛志	居宅介護支援センター よしの
委員	原 祐美子	生活支援センター サンフレンズ
委員	福山千亜紀	ケアプランサービスなでしこ
委員	野口 翔太	荒尾こころの郷病院
委員	幸田 展子	堀整形外科麻酔科クリニック

研修部会長をさせて頂いております、サン久福木の森田里恵です。

会員の皆様がより良い仕事ができるように、資質の向上を目指して研修部会で話し合い企画をしています。

しかし、昨年度2月からは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修を中止せざるをえない状況となりました。今年度も先行き不透明ではありますが、努力して参ります。

ご理解とご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

事務局部会



局長	橋口 哲也	やぶつばきケアプランセンター
次長	井形 諭司	ケアプランサービスなでしこ
委員	中村しのぶ	デイサービスのぞみ
委員	坂梨 恵子	介護予防・相談センター天光園
委員	田島 泰弘	駿馬・勝立地区地域包括支援センター
委員	竹下 一樹	中央地区地域包括支援センター
委員	手塚 勝則	親仁会ケアプランセンター
委員	久富 芳子	天領病院ケアプランセンター
委員	小谷 徹	大牟田市福祉課

協議会設立20周年を経て、そして、林会長体制による新たなスタートです。

コロナウイルス感染防止に十分配慮しての取組なので、いつもと違いますが、事務局メンバーと共に『今できること』を探し出していきたいと考えています。

さて、事務局では、利用者の福祉を中心に置き、主任介護支援専門員・施設系相談援助専門職の方々の活動をサポートする活動や他の団体等との共催活動を行っています。特に今年度は、20周年記念事業で出てきたご意見等を会員の皆様と話し合い、形にしていくミッションがあります。今の社会情勢を考えるとワイワイとは難しいかもしれませんが、対人援助専門職として熱く語り合えればと思っています。

長年、事務局を支えてくれた方々がこの節目に抜けてはいますが、新しいメンバーが入ってくれました。「3本の矢ならず、事務局10本の矢（月山さんも）」をモットーに事務局メンバーの意見を結集して頑張っていきたいと思えます。

広報事業部会



部会長	今岡 慶教	居宅介護支援事業所 はなぞの
副部会長	米田 直樹	三川地区地域包括支援センター
委員	雪野 仁実	駿馬・勝立地区地域包括支援センター
委員	今村美奈子	三池地区地域包括支援センター
委員	徳地 友加	サンファミリー介護サービス
委員	岩田 壽子	介護サポートセンター さんぼ
委員	芋生 明美	米の山病院
委員	前原 圭祐	やぶつばきデイサービスセンター
委員	坂上健二郎	高齢者総合ケアセンター サンフレンズ

こんにちは！広報事業部会です。

新年度が始まりましたが、コロナウイルス感染症の影響で、色々な事業が中止や延期になっています。

以前のような状況に戻るとい事はなかなか難しいところですが、少しでも状況が落ち着いてきたならば、また会員の皆さんに当協議会の活動報告や介護サービスの情報などをどんどん提供していきます！

「きらめき」は、記事を書いてから冊子の形になるまで、1ヶ月半～2ヶ月程度かかります。つまり内容によっては、温かだった活動報告や情報が会員の方のお手元に届くまでに冷めてしまう、という事が出てきます。今後はもっとホームページやフェイスブックを活用して温かい情報や記事を温かいうちにお届け出来ればと思います。頑張ります！！

相談役	安藤 寛治	メディカル・コアあとむ薬局
監事	新原 ひとみ	介護サポートセンター さんぼ
	橋本 強	大牟田市福祉課

シリーズ・実践事例

どこか投げやりなAさんに、
もっと何かアプローチができなかったかと思う事例について



【事例の概要】

H24年に別居のご家族より「ひとり暮らしなので、心配。心疾患があり、思うように動けなくなっているの、掃除や買い物など生活面の支援をお願いしたい。」と相談がある。Aさんは、元々アルコール依存があり、半年前の心筋梗塞の再発をきっかけに断酒をされたとのことだった。また、高次脳機能障害があり、ゴミを集めてこられる傾向にあったことから自宅内は物で溢れ、近所からは「ゴミ屋敷」と言われ、近所付き合いもよくない状況だった。介護保険申請を行い、ヘルパー支援など開始となるが、再び飲酒をされるようになり、訪問時に酔っぱらっておられる状況が多くなった。訪問看護による支援なども行うが、心筋梗塞を繰り返され、居宅サービスから小規模多機能ホームによる支援に切り替わることとなった。H29年、ご自宅で倒れている所を発見され、そのまま永眠された。

【基本情報】

Aさん 女性 68歳 要支援1

既往歴、現病：心筋梗塞、高次脳機能障害、アルコール依存症、アルコール性認知症、慢性心不全、アルコール性肝障害、糖尿病

ADL：移動 自立（長距離歩行は息切れあり困難）
排泄 自立（失禁あり）
更衣 自立（汚れた衣類をそのまま着られる）
食事 自立
入浴 自立（清潔保持が保てないので声かけ必要）

IADL：料理好きで大量に作り、腐ったものが

台所に溜まる。金銭管理は自己管理で問題なし。内服は自立であるが、自己判断での拒薬あり。

認知機能：理解力や判断力の低下あり。飲酒状況によっても違いがある。

経済状況：厚生年金と預金

【生活歴・家族歴】

B市生まれのB市育ち。4人きょうだいの2番目。「自分は、母親に愛されなかった。こんな遺伝子は残さない方がいい。」と長くお付き合いされた方はいたものの、結婚はされず。56歳の時に心筋梗塞で救急搬送。何とか一命をとりとめるも、高次脳機能障害の後遺症が残ったため、仕事を辞め、ひとり暮らしの自宅で読書をする等し、過ごされる。58歳の時に母親が永眠。飲酒量が増え、アルコール依存症の診断を受け、治療開始となる。きょうだい間の仲は良く、親族の訪問や支援は多くあったが「兄は優秀で、いつも母から愛されていた。自慢の息子。」等と、他のきょうだいへのコンプレックスがあるような言動があり、自分からきょうだいを頼ることや支援を受けることに遠慮や抵抗がある様子であった。

【支援経過】

H24年初夏

妹より「心筋梗塞を再発し、入院して治療をした。退院後にひとり暮らしを再開し、安静にするつもりで寝て過ごしていたら、体力も筋力も低下し、生活面が心配な状況となった。介護保険の申請をし、生活面でのサポートをお願いできないか。」との相談があった。

初回訪問

妹同席。介護保険のお手伝いなどをする事業所であるといった自己紹介をすると「私は別にひとりであるから大丈夫なのに。」とAさんは言われたが、自宅はゴミ置き場から拾ったものや、リサイクルショップ等で集めた本などの物で溢れ、住みついた野良猫が走り回っている状況で、糞尿が床などにそのままあり、腐った食べ物が台所に放置してあるような不衛生な状況であった。入浴は「たまにシャワーを浴びるくらい」とのこと、体臭がした。会話のなかで、心疾患があり、掃除は思うようにできないとAさんが言われたことからヘルパー支援を提案すると「妹も心配しているし、周囲が安心するためにもお願いしましょう。」と承諾された。ただし「監視されているように感じるから」と週1回でお願いしたいとのこと。筋力低下があり、社会参加のためにとリハビリや入浴のため通所系サービスを提案するが「年寄りばかりでしょう。リハビリは、公園へ行って運動するからいい。」との意向だった。買い物等の外出や週に1回は親族の経営する飲食店に食事に行かれてあった事もあり、週1回のヘルパー支援からのサービス開始となる。

モニタリングのために自宅訪問

ヘルパー支援中に訪問。ヘルパーと共に掃除をしてあり、笑顔あり。野良猫は、外で生活をしているようで、室内もきれいになっている。本人のベッド周辺のみ雑然としているが、ヘルパーさん曰く「お声かけしても触らせてもらえない」とのこと。よって、シーツや布団などは汚れているものの、物の処分のために要るもの、要らないものと選別を行っており、片付いてきている印象を受ける。近くの交流拠点での予防教室などの紹介を行うが「決まった時間に行くのが苦手。」との返答だった。

2回目のモニタリング訪問

飲酒を再開してあり、昼近くに起きる生活となっ

ている。ヘルパーの訪問時に酩酊に近い状態の時もあるとのこと。台所の鍋に蛆が湧いている。食事も食べたり食べなかったりされている様子。妹と情報共有を行う。「お酒が復活したのは知っています。やめるよう説得をしましたが、無理でした。」しばらくは家族間で訪問を小まめに行われるとのこと。

数日後、再訪問

お酒が抜けているのではないかとと思われる15時過ぎに訪問する。寝室でテレビを視聴中。お酒は抜けているようだった。体調面などの問いかけから、Aさんがお酒を飲み始めたきっかけが「何もすることがないから」であったと聞いた旨を話し、何か今からでも始めてみないか、例えば高齢者施設での傾聴ボランティアや花の手入れでもいいし…と提案するが「高齢者施設となると、母親を思い出すので高齢者とは接したくない。子供も嫌いなので関わりたくない。今のままで別にいい。」と話された。お酒が心臓によくないことも分かっているが、それでもいい。との意向。アルコール依存症の薬も出ているが、服用はしていない。

妹へ電話

飲酒状況から健康悪化する可能性が高いことから、社会とのつながり、生きがいづくりを試みたが「母親を思い出す」ということで難しかったことを伝える。「姉は、一緒に住んで母親の介護をしたかったのに、母は高齢になると兄を頼り、兄宅で暮らしました。兄宅の方が、孫などがいたというのもあるでしょうし、昔の人なので、最後は長男という考えもあったのだと思う。しかし、姉はやはり兄の方がいいのか…とひねくれたように受け取ってしまった。母も姉を同じように愛していたと思うが、愛情表現が下手な人だった。」といった返答があり、Aさんの飲酒の状況は支援者間で見守りながら、急変時に備えて支援していくこととなった。

H26年冬 妹からの連絡

「兄が亡くなりました。」

数日後に、自宅訪問実施

Aさんは、がっくりと肩を落としてあった。「憧れの兄だった。ずっと兄になりたいと思っていた。」ぼつりと話された。飲酒量が増えているようで、ビールの空き缶やお酒のパックがあちこちに散乱している。トイレに行くのも面倒であるとのこと、紙パンツを履いてあった。食事あまり取っていないようで、痩せてきてある。

妹へ電話

アルコール依存症の治療が入院などで出来ないか、このままではリスクが高いのではないかと話す。

妹より電話

受診し、現状を話した上で精神科医師とAさんと話し合いが持たれた。Aさんは、治療を受け入れず、このまま死んでもかまわないとのことであった。医師も、本人の意志が固いので頭を抱えてあった。→訪問看護を導入し、健康管理と内服管理をお願いした。兄弟や姪らも、頻回に訪問し、Aさんの体調を心配されている様子。

H27年年明け

定期受診の際にそのまま栄養状態不良と心機能低下にて入院になられたとのこと。

病院での退院前カンファレンス

心機能が著しく低下しており、発作にあと何回耐えられるか分からない。次の発作の時に亡くなる可能性も高い。本人の意向「死んでもかまわない。家で好きに暮らしたい。」支援者間で、本人の課題等を共有し、支援方法について検討する。食事をしっかりと取れる必要があるが、腐った食品を食べられる可能性があり、小まめに訪問ができ、臨機応変に対応が可能な小規模多機能施設の利用が

望ましいのではないかという結論となる。本人も了承されたため、小規模多機能施設のサービスへ移行となる。

小規模からの報告

変わらず飲酒されており、心筋梗塞で入退院の繰り返し。妹さんも仕事が終わった後に毎日訪問されている。

H29年妹さんから連絡

Aさんが亡くなったとの知らせ。家族としては、本人が生きたいように生きたのではないかと考えているとのことだった。

<考察>

どこまで本人の意志決定を尊重すべきなのか悩んだ事例であった。アルコール依存症についてや、愛着障害など、Aさんのケースで学んだことも多い。しかし、今ももっとどうにかすれば、Aさんがアルコールに依存することなく過ごせる方法があったのではないかと考えてしまう。例えば、介護保険以外の社会資源をもっと活かしていたら…農業の提案や料理サークル、当時はなかった子ども食堂も今なら提案できたかもしれない、と考える。他にも、ケアプランの際に本人と一緒に考える「Aさんにとっての“目標”をもっと聞いていたら、Aさんにとっての望む暮らし像が本当は違っていたのかもしれないと考える。

しかしながら、「愚行権」という言葉があるが、ケアマネジャーとしてご利用者に寄り添い支援するという、自身の果たすべき役割を考えると、対応が大変悩ましい。よって、今回の事例を踏まえて、ご本人の意向を尊重しつつも、ひとりで抱え込むのではなく、多職種や多くの支援者間で意見を持ち寄り、支援を検討できるようにしていくことが大切と改めて感じた。今後も「本人を中心に、本人とともに」のケアプランを目指して頑張っていきたい。

リしー随想

No.53



永田病院ケアプランサービスの堀川さんからバトンをもらった、大牟田市社会福祉協議会の松石智美と申します。堀川さんから、どうしてもとの事で受けさせていただきました(*^*)。

さて、何を話題にしようかと考えたところ、やはり猛威を振るった新型コロナウイルスの事かなと思い書くことにしました。

皆さんの事業所では新型コロナウイルス感染拡大予防のため、どのような対応をされておりましたか？当事業所では二班体制で交代勤務を行い、人生で初めてテレワーク勤務を行いました。交代勤務が始まり職員がいつもの半分の人数だったので違和感があり落ち着きませんでした。

緊急事態宣言中のモニタリングは、超短時間の訪問で対応したり、訪問を希望されない利用者宅には電話のみで対応したり、と、いつもの業務以上に気を遣い大変でした。慣れない交代勤務がストレスとなり、ストレス解消のため勤務日の昼食を毎回デリバリーで頼みまくり、至福の時を楽しんでいたところ・・・久しぶりに乗った体重計が大変な事になっていました。当事業所職員の筋トレマニアからは、「運動しましょう!!」と言われるのですが、運動はしたくありません。

今は増えた体重をどうやったら楽に落とせるか思案中です。

楽に痩せる方法があればみなさんご連絡ください!! (笑)

冗談はさておき、大牟田市では3名の感染(※令和2年7月20日現在)でなんとか踏みとどまっています。今後、第2波が来るかもしれないと言われており、マスクや手洗いでしっかり予防し「感染しない・させない」ように仕事をがんばりたいと思います。

皆さんも暑くなってきましたが体調に十分注意して、時々ストレス発散をしながら仕事を頑張ってください。

次回は、快く引き受けてくださった、居宅介護支援事業所はなぞの松井直澄さんにバトンを渡したいと思います。

○ 大牟田市社会福祉協議会
○
○
○ 松石智美
○
○
○

次回は……………
○ 居宅介護支援事業所 はなぞの
○
○ 松井直澄さん
○
○



です。

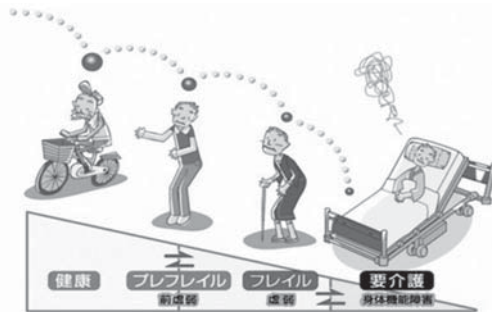
大牟田市からのお知らせ

福祉課（問合せ）☎41-2683

フレイルを予防して元気に過ごそう ～ 新型コロナウイルス対策「新しい生活様式」を踏まえて～

新型コロナウイルスの出現に伴い、今後は、一人ひとりが感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の対策をこれまで以上に取り入れた「新しい生活様式」の実践が求められています。

しかし、外出を控えて「動かないこと」が多くなると、身体や頭の働きが低下してしまいます。さらに筋肉量が減少すると歩くことや身の回りのことなどの生活動作が行いにくくなり、「フレイル（虚弱）」になってしまいます。フレイルが進行すると体の回復力や抵抗力が低下し、感染症の重症化にもつながりやすくなります。フレイルを予防して元気に過ごすことが大切です。



【フレイルを予防する3つのポイント】

運動のポイント

- ☑ 人混みを避けて、散歩する
- ☑ 家の中や庭などでできる運動（ラジオ体操など）を行う
- ☑ 家事や農作業などで体を動かす
- ☑ 座っている時間を減らし、足踏みをするなど体を動かす

食生活・口腔ケアのポイント

- ☑ 3食欠かさずバランスよく食べ規則正しい生活を心がける
- ☑ 毎食後、寝る前に歯磨きをする
- ☑ しっかり噛んで食べる、早口言葉を言うなど、口周りの筋肉を保つ

人との交流のポイント

- ☑ 家族や友人と電話で話したり、手紙やメール、SNSなどを活用し、交流する
- ☑ 買い物や移動など困ったときに助けを呼べる相手を考えておく

【日常生活を営む上での基本的な生活様式】



よかば〜い体操の動画（解説付き）を作成します

家庭でできる筋力トレーニングとして、本市独自の介護予防体操「よかば〜い体操」を実施しています。

外出を控えていても自宅でも簡単にできるよう、解説付きのよかば〜い体操の動画の作成を予定しています。完成した動画はDVD配布やYouTube配信を予定しています。完成しましたら改めてお知らせいたしますので、ぜひご活用ください。

（問い合わせ）大牟田市保健福祉部福祉課健康対策担当 TEL：41-2668

【編集後記】

まさかこんな時代が来るなんて…。新型コロナウイルス感染拡大を受け、感染拡大予防に努めつつ、高齢者の方々の支援を継続する。プライベートでは外出自粛を余儀なくされるなど、不安や責務・ストレスなど、これまでに体験したことのないような葛藤を抱え、体調を崩されている方も多いのではないのでしょうか。ケアマネ連協でも感染拡大を予防しつつ、会員の皆さんの研修の機会等をどのように確保していけばよいのか、思案して頂いているとお聞きしています。“新しい生活様式”。どのような形がベターなのか。頭の固い私には想像もできませんが、皆さんで知恵を出し合って、この苦境を乗り越えていきましょう。（一日千秋）

編集・発行 大牟田市介護支援専門員連絡協議会 広報事業部会
事務局 大牟田市福祉課総合相談担当（TEL: 0944-41-2672 FAX: 0944-41-2662）
大牟田市介護支援専門員連絡協議会ホームページ <http://omuta-cm.net>